

大山振子沢

【山 域】伯耆大山

【場 所】鳥取県

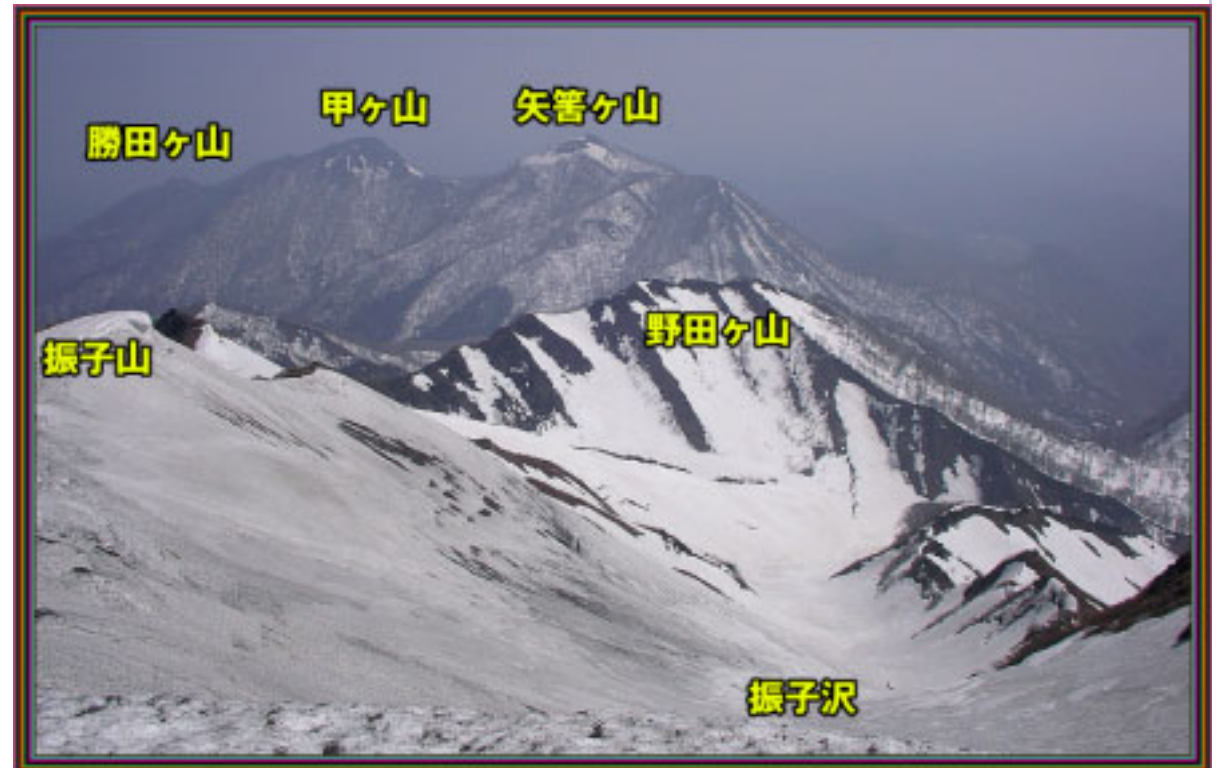
【日 時】4月9日(土)

【コース】文珠越登山口 - 鳥越峠 - 駒鳥小屋 -
振子沢 - 1636 ピーク

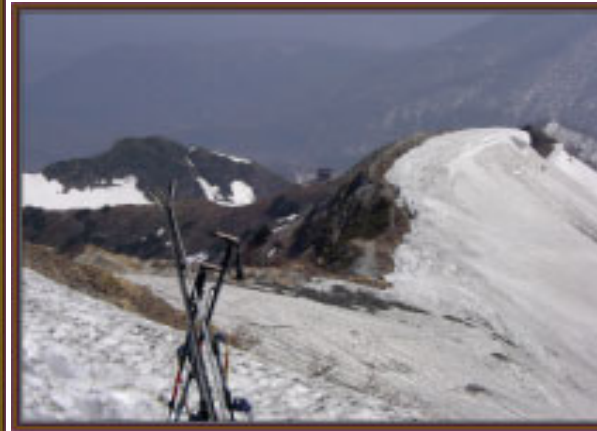
【天 候】快晴

【メンバー】石野・大塚

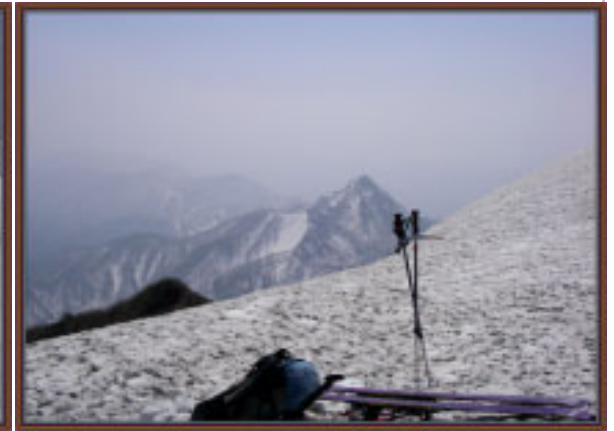
残念なことにメンバーに声をかけるが、ほとんどが故障や職場移動時期で石野氏と二人になった。そろそろ播州の山スキーも終わろうとする頃、大山に足を向けた。



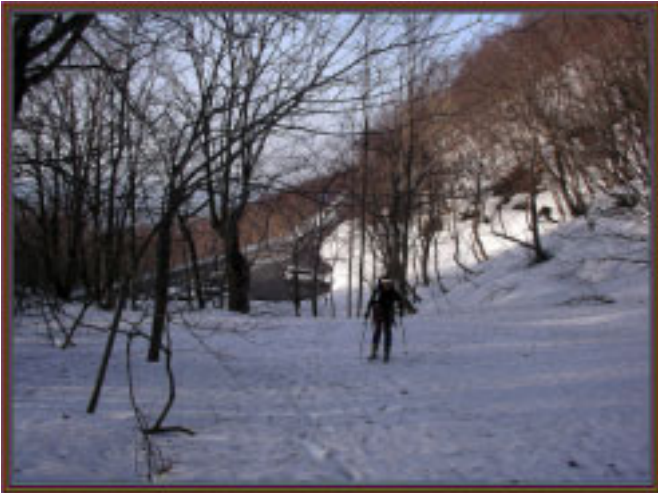
大山と烏ヶ山



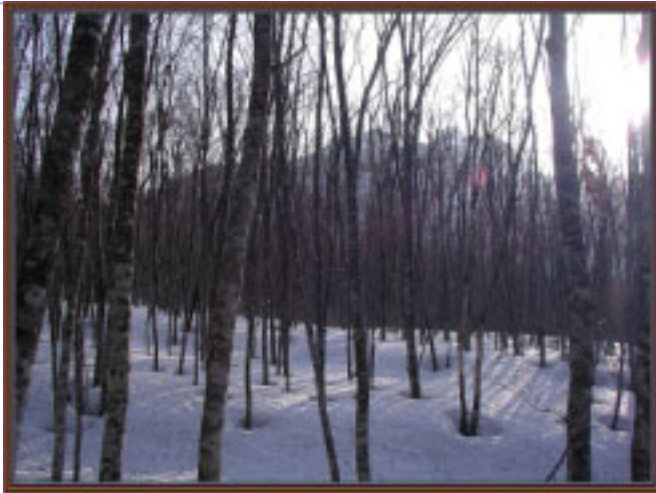
振子沢より三鈷峰と振子山



振子沢より烏ヶ山



Pからいきなりシール可能



烏ヶ山とブナ疎林



鳥越峠の最後の急斜面

姫路を4:30に出て中国、米子道に乗って2時間で登山道へ到着。氷ノ山へ行くのと時間的に変わらない。車が2台、すでに先行者が入っているようだ。装備を固めているうちに1台がやってきた、その装備の違いにお互いに「そのザックには何が入っているのですか?」。White Birdスタイルの重装備にあっけにとられたのだろう。さっさとシールを貼り付けてディバックでブナ林へと入って行ってしまった。我々は初めてのエリアなので地図を要確認で慎重である。標識の埋まりから見て約1.5mは積もっているだろうか?、この時期に担ぎなしでいきなりのシールで行けるのには正直驚きである。彼にどのくらいの時間でピークまで行けますか?、聞いたところ「4時間くらいかなあ」との答えが返ってきた。地図のコンターを読んでもそんなにもかかるとは思えないのだが……。まあ初めてにエリアだしゆっくりと行こうとデジカメやビデオを回しながら素晴らしいブナ林に囲まれてシールを運んで行く。

このブナ林は植林されているのであろうか?、地図で見ると1km x 0.5kmほどの巨大平原にブナを中心に老齢のサワグルミやミズナラがポツリポツリと生息していて小鳥がさえずり、コゲラが木をつつく音色がこだまして静寂な森の中にとけこんでなんともすがすがしい小さな世界である。

1時間ほど行くと文殊越からの分岐である。小さな小尾根を2つほどまたぎ直登して上がると鳥越峠である。

ここで先行者に追いつく、彼は山スキー装備であるのに急斜面になるとスキー板をそこに置い



ハーネス、ゾンデ棒、スコップ、ピッケル etc といつものフル装備



大山の上高地



鳥越峠から駒鳥小屋へ滑降



駒鳥小屋

て、小さなディバックを20 mほど上にデポして今度はそのスキー板をとりに再び担いで上がるというスタイルである。まるで岩壁に挑むソロクライマーのスタイルのようなので、「それは訓練しているのですか？」と聞くと「私はこんな急斜面でシール登りは出来ない」との返事が返ってくる??、じゃあなぜ板をザックにくくりつけないのか??・・・、鳥越峠からの滑降もヒールフリーのままで滑るし??・・・まあいろんなスタイルがあるもんだと言葉が出ない(*_*)。

鳥越峠からの滑りはほどよいザラメで申し分なしたが、所々に雪割れやデブリがあるので楽しい奇声を発せられない。ほどよく滑り込むと地獄谷と本沢の出会いにつく。

再びシールを付けて本沢から振子沢へと登り始めるが、このほんの小さな世界が上高地にそっくりで{大山の上高地}と名付ける(^.^)。右に雪溶けの本沢(梓川)がせせらぎ、見上げると穂高連峰・・・姿かたちは違えど前穂のカール、大槍、小槍、ピラミッドピークと裏大山は素晴らしい光景である。

振子沢を上り詰めて行くと車2台の先行2人組に追いついた。彼らはあと300 mほどの急斜面を登れば1636ピークに達するのに「もう限界です」とへたっていた。「もう少しだよ」って励ますと「山は逃げない」との答えが返ってきた。その言葉はガスって見えない時に使うモンだろうと??・・・その地点からさっさと滑って帰ってしまった。まあいろんなスタイルがあるもんだと言葉が出ない(*_*)。



本沢から振子沢へ



雪割れ



先行者に追いつく

振子沢核心の急斜面にさしかかると、雪は黒く変貌しシールも雪と土で混ざり合いあまりきかなくしまつて、私は最後の急斜面5mの所でズルズルと滑り落ちてしまい、ピックストックをブチ込み初期停止！。ほんとに頼りになるピックストックである。ピークから真新しいシュプール跡があったが、これはあとで聞くと6日に行った島根の植田さんのであった。

振子沢ピークからは剣ヶ峰、弥山、別山と夏山縦走路の稜線が見渡せてまだ冬の形相である。西にユートピア小屋、三個峰、そして北縦走路の野田ヶ山、矢筈ヶ山、甲ヶ山、勝田ヶ山、南に烏ヶ山、象山、鏡ヶ成国民休暇村が・・・360度の展望である。1636mピークから本沢を見下ろすと素晴らしいカールが下に続いているが、雪割れが所々にあり雪崩れる寸前である。

剣ヶ峰の北壁が雪溶けて黒い砂塵が時折強風に乗って運ばれてくる。振子沢の黒い雪はこのせいである。3月初旬はまだ剣ヶ峰も真っ白だろうから来年はこの時期にユートピア小屋を利用して滑りつくしたいものだ。地図を見れば野田ヶ山から西の大休谷もおいしそうである(^.^)。ピークで大休止をとっていると、夏山登山道稜線に無数の人が登ってきている。また別山右横の八合沢に4人の山スキーヤーが滑降しているのが見えた。この沢もなかなかいい沢のようだ。

振子沢は北アルプスの大ノマのカールの小型のような感じである。しかしひとたび滑り込む



ピークはもうすぐだ



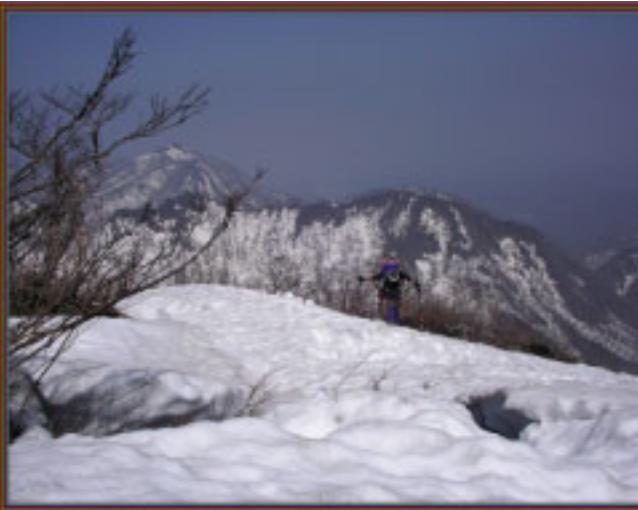
ピークより振子沢



土混じりの雪に翻弄



黒雪に悪戦苦闘



キリン峠へ



文殊峠に続く尾根

と黒い砂塵でブレーキがかかり思うようにコントロールが出来ない。これには一服してしまった。また高度を下げるに従ってこの陽気のせいで登りには無かったデブリが現れたり、駒鳥小屋付近ではスノーブリッジ崩壊と、この沢も今日で終わりだろう。

帰りは鳥越峠からキリン峠 1405 m に上がりキリン沢を見下ろすがこれも雪割れとデブリであった。ここから見る槍ヶ峰は素晴らしくそびえ立っていて圧倒させられる、またその沢はまるで槍沢の小型のようでとんでなく急斜面である、雪溶けの後からひっきりなしに落石があり崩壊必死である。槍ヶ峰手前のピークから文殊越に延びるカールも雪がついていれば素晴らしい斜面である。

キリン峠からはブナ林へ大滑降してあとは、来たルートの文殊尾根下のブナの大平原地帯をルンルンで駐車場まで一気に滑り込む。下山 14:15、お疲れさんでした。

帰りは湯原の混浴露天風呂に浸かって疲れを癒していると、若い女の子連れがバスタオルを巻いて平気で入って来ている、いい目の保養をさせてもらった(^.^)。



槍ヶ峰と槍沢